

令和6年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表

【芸術選奨】

部門順・敬称略

受賞者 部門	受賞理由(概要)	主な作品等
<p>佐々木 健二郎 (ささき けんじろう・88歳) 美術(洋画)部門</p> 	<p>昭和11年生まれ。 ニューヨークに約50年在住し、NYアートスチューデントズ・リーグ「世界の青年美術家展」(NY)、ブルックリン美術館「全米版画展」(NY)等に作品を発表したほか、ニューヨーク、東京、京都、仙台など日本各地で個展を開催するなど、活発な活動を続けてきた。また、画業に加えてニューヨークにおける日本文化についてまとめた「日本文化ニューヨークを往く」を出版するなど文筆家としても活躍している。 令和5年度は、ニューヨーク時代の作品と帰国後の作品の大規模な個展「フリーダムライン」を宮城県美術館県民ギャラリーで開催し、県内画壇に衝撃を与えるとともに、多くの美術ファンを魅了した。 今後も優れた作品の発表で洋画の魅力の普及に寄与するとともに、ニューヨーク在住中に得た芸術文化に対する考え方やそのあり方等々についての見識を広めるなど、貴重な経験に基づく成果を指導・伝授されることが期待される。</p>	 <p>「ボツティチェリによるフリーダムライン」</p>
<p>一関 京子 (いちのせき きょうこ・72歳) 美術(書)部門</p> 	<p>昭和27年生まれ。 中央展や地方展で優れた現代書(近代詩文書・少字数書)の作品を多数発表し、宮城県芸術祭書道展や河北書道展、毎日書道展などで入賞を重ね、現在は宮城県芸術協会の運営委員、河北書道展の審査会員、白峰社の理事を務めている。また、書活動として平成16年に「書と建築空間」、平成17年に「書と建築空間Ⅱ」、平成18年に「書と建築空間Ⅲ」(移動展)、平成20年に「一関京子小品展」など、二人展や個展も多く開催してきた。 令和6年3月には、「一関 京子書展・・・のあとさき」を開催し、展示空間やテーマに沿った作品群とその説明等において、従来とは異なる書展を提案する示唆に富むものと高く評価された。 今後も、本県を代表する魅力ある少字数書作家として、意欲的な作品制作や審査員等の活動を通して、本県の書道界の牽引役としての役割が大いに期待される。</p>	 <p>「天海」</p>
<p>佐々木 徳朗 (ささき とくろう・89歳) 美術(写真)部門</p> 	<p>昭和10年生まれ。 写真家として、気仙沼市水梨地区で農林業に従事する傍ら、地域の人々や営み、そしてその空間を約70年にわたって撮影し続けている。氏の写真には、外部から来たカメラマンでは決して撮れない独特な視点と哲学があり、しかもその撮影が70年にも及ぶため、記録性においても作品としても他に類を見ない卓越したものとなっている。また、氏の初期のスライド作品群は、宮城県自作視聴覚教材コンクールに連続上位入賞し、平成6年には視聴覚教育の発展と普及への貢献から視聴覚教育賞を受賞するなど、宮城の社会教育にも貢献してきた。 令和5年度は、第60回宮城県芸術祭写真展において写真集「百姓日記」等で使用された作品が展示され、氏の長年にわたる偉大な業績が広く再認識された。また、この展示が契機となり、氏の作品群をどう読み取るかというテーマが新たに生まれつつある。 社会の全体性を把握しつつ一地方の一地区を氏がどういった視点で記録していくか、今後も楽しみである。</p>	 <p>写真集「百姓日記」</p>

【芸術選奨新人賞】

受賞者 部門	受賞理由(概要)	主な作品等
<p>山本 政彰 (やまもと まさあき・63歳) 美術(日本画)部門</p> 	<p>昭和36年生まれ。 第82回河北美術展に初出品で入選を果たすと、第56回宮城県芸術祭絵画展の公募の部で優秀賞、第57回宮城県芸術祭絵画展で宮城県芸術祭賞、第58回宮城県芸術祭絵画展で(公財)仙台市市民文化事業団賞、第83回河北美術展で河北賞を受賞するなど、近年目覚ましい活躍をされている日本画家の一人である。 令和5年度も、第60回宮城県芸術祭絵画展で宮城県教育委員会教育長特別賞、第76回塩釜市美術展で生涯学習センター長賞を受賞するなど、氏の作品は複数の美術展で高く評価されている。 今後も、ますます制作に励み、素晴らしい作品を発表していくことで、宮城県の日本画界を牽引していく存在になっていくことを期待したい。</p>	 <p>「古寺」</p>

【芸術選奨新人賞】

部門順・敬称略

受賞者 部門	受賞理由(概要)	主な作品等
<p>小田原 のどか (おだわら のどか・38歳) 美術(彫刻)部門</p> 	<p>昭和60年生まれ。 大学在学中から全国各地のグループ展に参加してきたほか、個展も多数開催しており、群馬青年ビエンナーレ2015で優秀賞、ALLOTMENTトラベルアワードで大賞を受賞するなど、氏の作品は様々な企画や美術展示会において、高評価を得ている。 令和5年度は、「小田原のどかつなぎプロジェクト成果展2023『近代を彫刻／超克するー津奈木・水俣編[序]』」の開催や、企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか?ー国立西洋美術館65年目の自問 現代美術家たちへの問いかけ」に参加したほか、彫刻に関する著書2冊を著作・編集するなど、幅広い活躍を見せた。 今後も更にこれまで見えていなかった彫刻・美術制度上、文化史上の様々な問題を浮上・提示してもらうとともに、地元・宮城に密接した問題にも多く取り組まれていくことを期待したい。</p>	 <p>「近代を彫刻／超克する 上野・国立西洋美術館編」 撮影:©上野則宏 提供:国立西洋美術館</p>
<p>沼沢 修 (ぬまざわ おさむ・70歳) 文芸部門</p> 	<p>昭和29年生まれ。 平成22年に第一歌集の「若葉光る日」を出版、平成30年に歌書「茂吉歌碑を訪ねて」を出版するなど精力的に活動を行い、宮城県歌人協会の宮城県短歌賞や第58回宮城県芸術祭(文芸部)で宮城県知事賞を受賞するなど、その作品は高い評価を受けてきた。 令和5年度は、第二歌集の「秋のひかり」を出版した。本集は郷土愛に満ち、歌集全体の完成度が高く知的抒情にあふれており、県内において近時出版された歌集の中でも傑出しているといえ、宮城県歌壇の堅実な発展を象徴するといっても過言ではない内容であった。氏のこの作品の発表により、県歌壇の高いレベルを全国に示すことができたといえる。 また、氏は宮城県歌人協会の役員を務めており、県歌壇の発展及び全国への発信に大いに貢献していくことを期待するとともに、その情熱的で誠実な人柄からも今後ますますの精進と活躍が楽しみである。</p>	 <p>第二歌集「秋のひかり」</p>
<p>大河原 準介 (おおかわら じゅんすけ・43歳) 演劇部門</p> 	<p>昭和56年生まれ。 平成19年に東京で旗揚げした演劇企画集団LondonPANDAの主宰を務めており、脚本・演出を行った同団の公演Vol.6「おふとんのなか」が佐藤佐吉賞最優秀演出賞及び優秀作品賞を受賞するなど、優れた演出家として評価されている。また、平成28年に本拠地を仙台に移してから、若手演出家コンクールで優秀賞を受賞したほか、演劇の手法を用いたコミュニケーションワークショップに取り組むなど、多方面で活躍を続けている。 令和5年度は、演劇企画集団LondonPANDA Vol.16「悪魔の証明」の作・演出を務めたほか、せんだい演劇工房10ーBOX 20+1周年記念事業「異邦人の庭」の演出、仙台演劇研究舎主催の「高校生で作る演劇『わたしの星』」の演出を務めるなど、質の高い作品を作り上げた。 今後も、劇作家・演出家として人間の心の奥底に切り込んだ作品を作り続け、演劇界の発展に寄与するほか、ワークショップの開催等を通じて演劇の魅力の発信や人材育成に寄与していくことが期待される。</p>	 <p>vol.16「悪魔の証明」 撮影:堀田祐介</p>
<p>NUMBER8 (なんばーえいと) メディア芸術部門</p> 	<p>平成25年から小学館ビッグコミック誌に連載された「BLUE GIANT」の担当編集者として制作に携わり、ヨーロッパ編第2部「BLUE GIANT SUPREME」の単行本9巻以降で正式にストーリーディレクターとして参加した。JAZZ音楽を漫画で表現するという難しいテーマながら、魅力的な作品となった「BLUE GIANT」シリーズは高い人気を集め、第62回小学館漫画賞(一般向け部門)、第20回文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞を受賞するなど高い評価も得た。作品の導入部では仙台市が舞台に設定され、市内の情景が登場するなど地元民にとっても馴染み深い作品となった。また、劇場アニメ映画「BLUE GIANT」で脚本を担当したほか、小説家として南波永人名義で「ピアノマン」『BLUE GIANT』雪折の物語」を発行するなど多彩な活動を行った。 令和5年度は、原作を担当する漫画「BLUE GIANT MOMENTUM」の連載が開始、また原作を務める「ABURA」がさいとう・たかを賞を受賞するなど、複数の作品で活躍を見せた。 今後も漫画原作者としてコミック界を更に面白いものにしていくとともに、脚本家や小説家としての活躍も期待したい。</p>	 <p>「BLUE GIANT MOMENTUM」 ©石塚真一・NUMBER 8/小学館</p>